非核の政府を求める石川の会　会報

非核・いしかわ

原水爆禁止二〇一三年世界大会・参加報告

私たちは微力であるが、決して無力ではない

神田　順一

初めての原水爆禁止世界大会に参加、被爆地・長崎も初めての訪問です。石川県からの参加者は三五人でした。一二〇円均一料金の長崎市内電車を乗り継いだ三日間の行動を報告します。

開会総会で平和行進の通し行進者たちが入場する（8月7日、長崎市民会館）

八月七日㈬

◎開会総会（長崎市民会館　六五〇〇人参加）

田上富久長崎市長の歓迎挨拶

「核兵器の非人道性こそが人間の視点であり、全員が共有できる視点である。世界大会参加の皆さんと心から連帯し、核兵器のない世界の一日も早い実現を呼びかける」

安斉育郎立命館大学名誉教授の主催者挨拶

「主権者である私たち一人ひとりは微力ではあるが決して無力ではない。ゼロは一〇〇万集めてもゼロだが、一は一〇〇万集めると一〇〇万の力になる。被爆七〇年であり、NPT再検討会議が開催される二〇一五年にむけ、核兵器禁止条約の交渉開始を求める世論と運動の巨大なうねりをつくりだそう。」

私は平和行進の全国の通し行進者とともに舞台に上がる機会があり、六五〇〇人の大会参加者から歓迎され、実に壮観だった（写真上）。来年以降も県内通し行進を務める決意を固める。

◎非核の政府を求める会交流会（一一人参加）

非核の会の増田善信、野口邦和、高橋信一常任世話人や斉藤俊一事務室長、岩手、静岡、大阪、長崎など各県事務局長の参加があり、非核の会発足当時の経緯や非核五項目と原発問題、非核の会と原水協

花鳥風月

小学二年の時に広島で被爆した中沢啓治さんの自伝的な漫画『はだしのゲン』（以下、ゲン）は、国内外の多くの人びとに読み継がれている。金沢市内の翻訳ボランティアグループ、プロジェクト・ゲンによるロシア語版、英語版を皮切りに現在では二〇ヵ国語に翻訳されている。▼中沢さんの最後の著書『はだしのゲン　わたしの遺書』によると、ゲンは漫画本だけではなく、絵本、紙芝居、著書（四冊）、劇映画（三部作）、アニメ映画（二本）、ドキュメンタリー映画（二本）など多彩なジャンルで描かれている。九条の会・石川ネットの憲法集会での神田香織さんの講談「はだしのゲン」も心に残る舞台だった。金沢市民劇場の九月例会「ミュージカル・はだしのゲン」への期待も大きい。▼県内小中学校に漫画『はだしのゲン』（全一〇巻）の寄贈運動を続けている石川反核医師の会の呼びかけで設立した「はだしのゲン」をひろめる会は、本年五月七日にNPO法人となり、八月一日にホームページ（http://hadashinogen.jp/）を起ち上げた。被爆の実相と平和の尊さを次の世代に伝える情報ツールとして、同会のホームページが広く活用されることを期待する。（か）

事務局
〒920-0848
金沢市京町28-8
石川民医連労働組合気付
Tel 076-251-0014
郵便振替口座
00760-0-15689

非核５項目

①全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
②国是とされる非核三原則を厳守する。
③日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
④国家補償による被爆者援護法を制定する。
⑤原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

との相違点など率直な意見交換ができた。

八月八日(木)

◎非核の会からの参加者として原爆投下中心地標柱に献花。しんぶん赤旗の取材があり、翌日の日刊紙で報道された。

◎平和公園にある平和祈念像前広場は翌日の長崎市主催の平和祈念式典の会場であり、大型テントが設営され、たくさんの椅子が並べられていた。

◎第四分科会「非核平和の自治体づくり」（長崎県歴史文化会館　八一人参加）

石川の会の県内自治体アンケートにもとづく平和事業の取材・会報「非核・いしかわ」による報道を通じて、平和市長会議への加盟促進や各自治体の平和事業の推進をはかる取り組みを報告した。一歩踏み出す取り組みとして関心が集まり、県内自治体の平和事業アンケートの送付希望が寄せられた。

◎民医連参加者交流会「サンセットクルーズ in 長崎港」（約二五〇人参加）

長崎民医連の方が案内役を務められ、長崎湾の自然、歴史、原爆投下当時の被害の様子などきめ細かく紹介され、好評だった。水平線に沈む夕日を眺めながら船上デッキでのビールも格別だった。

八月九日(金)

◎再び原爆投下中心地標柱、爆心地公園周辺の記念碑めぐり（ナガサキ誓いの灯・灯火台、ふりそでの少女像、原爆殉職教え子と教師の像など）、長崎原爆資料館を見学（当日は無料公開）

◎閉会総会（長崎市民会館　七〇〇〇人参加）

米国のオリバー・ストーン監督の講演

「広島、長崎への原爆投下はソ連を牽制するためである。原爆投下により日本が降伏し、戦争を終結させたというのはウソである。私たちは人々を核兵器で武装するのではなく、第二次世界大戦終結の真の歴史について知識で武装しなければならない。歴史を学ぶことこそが過去の過ちを繰り返さない道である。」

オリバー・ストーン監督を迎えて開かれた「映像のひろば」分科会で上映されたドキュメンタリー映画「原爆症認定訴訟の記録　おりづる」（有原誠治監督、七三分）のＤＶＤを購入した。今後、反核平和を求める集会や学習会等で上映会を企画していきたい。

開会総会会場の正面にて記念撮影、写真中央が参加印象記を寄稿いただいた西朋弥さん（八月七日、長崎市民会館）

◆原水爆禁止世界大会に参加して◆
行動し訴え続けることが大事

西　朋弥

八月七日(水)～九日(金)原水爆禁止二〇一三世界大会に参加しました。私にとって初めての長崎です。初めての長崎は味わいのある町並みで、どこの街とも似ていない独特の雰囲気を漂わせていました。ここに六八年前、原爆が落とされたとは到底想像もつきません。

ふと思います。「平和って何だろう?」と。戦争が招いたもの、もう時間が戻ることはありません。自分が考える平和と、第三者が考える平和、時代が必要としている平和、平和という言葉一つとっても解釈する人にとって受け止め方も違うと思います。

大会では心に留まるイベントが数ある中、ここでは二日目に行われた「映像のひろば」分科会について触れたいと思います。

映画の広場「オリバー・ストーンが語るもう一つのアメリカ史　第三話　原爆投下」の上映、オリバー・ストーン監督とピーター・カズニック教授との交流会がありました。

オリバー・ストーン監督は代表作に「プラトーン」というベトナム戦争を題材にした映画を発表しています。ご自身も志願兵としてベトナム戦争に参加されたそうです。戦争に参加したことによって監督自身が、どのような視点で戦争をとらえ、さらに変化していったのかに興味を持ちこの分科会を選択しました。

オリバー・ストーン監督の映画で印象的だった言葉は、アメリカ高官七人中六人が原発使用は軍事的に必要なかった、道徳的に非難されるべきものだと認識されていた事実があったという言葉です。

当時の米大統領トルーマンは、日本が終戦の道を探っていることを知りながら、ロシアの勢力を恐れ、アメリカは権力を誇示するために日本に原爆を投下したということです。マッカーサー将軍は、もしアメリカが天皇制の維持を早くに約束していたら、投下される前に戦争は終結していたはずだと述べているそうです。

戦後の教育では、アメリカと日本国民のほとんどが原爆投下により終戦になったと思っていることです。実際は八月八日の夜開始されるソ連の満州侵略によって日本が降伏をすることを知っていたアメリカは、ソ連に圧力をかけ、力を見せつけるためと原爆を投下したということです。

現在、学校で使用される教科書には真実を教えてくれるものはありません。なぜでしょうか？この国はどこに舵を向けているのでしょうか？日本軍が傷つけた他国の人々もたくさんいます。

イメージしてください。平和とは何か。世界の動きは、私の考えとは遥か遠くに利益ばかり追求した動きがあります。そして、うずまく思想の中、利用される国民。戦争という愚かな行為をすることによって、たくさんの犠牲者が生まれます。こんな恐ろしいことは絶対にあってはいけません。

物が溢れている社会の中で、何を選んで生きて行きていくか、本質を見抜く力を失っているのではないだろうかと思いました。本質を見抜く力がなければ、誤った選択をしてしまいます。しかし、本質を見抜く力をつけるためには、知識や行動が伴わないと、とてもじゃないけれど時代に翻弄されてしまいます。知らないのも罪、知ろうとしないのも罪ならば、行動し知る努力をしようと強く思いました。

現在の日本では原発＝核が問題視される割合が非常に大きくなりました。後始末に数十億年もかかるものが地球にあっていいのだろうか？戦争によってたくさんの犠牲者が生まれ、長崎の土地は放射能によって七〇年は使用できないといわれていたそうです。その中で復興に向け努力してきた先人たちがいます。私たちのおばあちゃん、おじいちゃん方が大変な思いをして日本を復興に導いてくれました。日本に原発＝核はいりません。

人間は地球という星の土地を一時借りているという意識を持った方がいいのかもしれません。大地に戻ることのない核兵器は不必要です。そして、世界唯一の被爆国として戦争反対と核兵器廃絶を、他国に訴えつづけるべきだと思います。

原水爆禁止世界大会に参加するまで、どれだけ自分が勉強し行動しても国は変わらないと考えていました。しかし、数えきれないくらいの方の話を聞き、変わらないと諦めるのではなく、行動し訴え続けることに意味があると感じました。大きな収穫です。すべてを把握することは難しいですが、参加したメンバーで情報を共有し、誰もが気軽に参加できる勉強会を開いていきたいです。参加させて頂きありがとうございます。

（城北病院医局事務職員）

原発を考える石川女性の会総会

記念講演『福島・土と生きる』を語る
フォトジャーナリスト・大石芳野さん

八月四日、金沢市で二六回目の総会と記念講演会が七〇名の参加で開かれました。

記念講演で、大石芳野さんは、土が無ければ生きて行けない福島の農民の姿、土といのちを奪われた怒りと苦悩、そして未来へのまなざしを写真で訴え、参加者の共感を呼びました。

今、『珠洲原発を止めた人たちの記録』は大評判です。この作品は二〇年前に制作しＴＶで放映された『能登の海、風だより』（日本全国ＴＶドキュメンタリー大賞受賞作品）です。

講演にはディレクターをされた赤井朱美さんも参加され、当時この作品の審査員を務められた大石さんとの交流談もありました。

「真実はやがて芽を吹く」という大石芳野さんの言葉と重ね、原発を考える石川女性の会二五年間の取り組みに確信を深め、子どもたちの未来に原発いらない、再稼働を許さず、志賀原発廃炉へ、もっと女性の思いや力と知恵を集めようと熱い総会になりました。

総会では、私が志賀原発再稼働をめぐる問題点と活断層調査など住民運動について報告しました。

尾西洋子

（編集部注：赤井朱美さんは非核石川の会代表世話人五十嵐正博氏のパートナーです）

「石川でも声をあげよう」と被爆二世部会が発足

池田治夫

七月二八日、金沢市内のホテルにて開催された「第五四回石川県原爆被災者友の会総会」で「二世部会」の発足を確認しました。昨年の秋から準備に入りましたが、きっかけは親世代の高齢化と福島原発事故後の動きへの危機感でした。まず二世へのアンケート活動に取り組みました。機関紙に同封して親から渡してもらったり、二世健診の時に直接訴えて四〇通を集約しました。半数の方が親から被爆体験を聞いていて継承が大事だと考えていること、ガンリスクが高いことへの不安や検診を望む声が多いとの印象を受けました。他県の二世の会との交流もしました。四月には小児科医師による「チェルノブイリとその後から、わかったこと、わからないこと」と題して、「原爆と原発の違いは」といったそもそも論からの分かりやすいお話しを聞きました。

当日は二世が五人参加し、三世・四世の子どもさんまで顔を出されていて驚きましたが、同時に原子の核に手を突っ込んだ人類の罪深さも痛感しました。また、かつての革新自治体の頃に制度化された東京都や神奈川県の二世のガン検診や医療費補助制度について、石川でも声をあげて要望していこうという意見も出されていました。それらの討論を経て確認された「よびかけ文」は別紙の通りです。これで一歩前進として、被爆体験と運動の継承に向けて歩んでいきたいと思います。

【関連資料】

「石川県原爆被災者友の会二世部会」発足の呼びかけ文

私たちは、六八年前、広島や長崎で原爆被害にあった親のもとに生まれました。戦後社会の混乱と再建の中で懸命に生きる親の姿を見て育ちました。既に亡くなっている者も多くいますが、生きていても七〇歳以上となります。その時の体験について語った者も、硬く口を閉ざしたままの者もいました。

私たちは、健康不安、特に「親の遺伝子のキズがガン発生のリスクとなるのだろうか」という漠然とした不安を持って生きてきました。二〇一一年三月の東日本大震災と福島原発事故は、原爆被害も原発被害も「同じ核被害」と受け止めれば、とても他人事とは思えません。目に見えない放射能による被害をこれ以上うまないためにも、学習を重ね、行動を起こします。

親の世代の体験を聞き、子どもたちに語り継ぐのが私たちの責任だと思います。

◎二世の会として何をするか

・アンケートで被爆二世の実態と抱える問題を把握したい。

・被爆者から体験を聞き、書き残すことを通じて「学習」し、次の世代に語り継いでいきたい。

・これまで頑張ってきた「石川県原爆被災者友の会」の活動を援助し、運動を継続したい。

・全国的に二世の会が組織されつつあるが交流し、連携を探りたい。

・行政に対して「ガン検診」の必要性を訴え、支援を要請したい。

ひとりでも多くの方が、呼びかけに応えて運動に参加されることを期待します。

二〇一三年七月二八日

（呼びかけ人）藤田伸博　陣内智子　池田治夫

世界大会代表派遣募金の報告とお礼

原水爆禁止二〇一三年世界大会に非核石川の会は神田順一事務局長を石川県代表の一員として代表派遣いたしました。

派遣費用の募金をお願いしましたところ一七人様から七五〇〇〇円が寄せられました。

お礼を申し上げご報告します。

（非核の政府を求める石川の会常任世話人会）

お知らせ

非核の政府を求める会ニュース（全国の会ニュース）は七月号と八月号の合併号で発行されました。会報・非核いしかわ八月号（八月二〇日発行）と同時配布となりましたことをお知らせします。

第四回核兵器廃絶国際行動デー
講演要旨「炉は続くよ　どこまでも?」(中)
講師：アーサー・ビナード

アーサー・ビナード講演会に320人が参加（6月9日、金沢市文化ホール）

ここに〝アベコベノミクス〟を絶賛するデタラメの新聞記事があります。そしてその下に〝チェコ原発受注へ〟という大事な記事が小さく載っています。総事業費は百億ドル（約一兆円）で、日本の原発輸出が一段と加速しそうだ、とあります。これを止めるためには先ず、原子炉とは何なのかを押さえておくことが必要です。

私は日本に来て二二歳から日本語を学び始めました。アトミックボムは日本語ではどう言うのか気になっていて、比較的早い時期に「原子爆弾」や「核兵器」という言葉を覚えました。

でも最初は何も分かりませんでした。私は言葉を通して世界を見るので、英語のアトミックボム（an atomic bomb 原子爆弾）、ヌークリアウェポン（a nuclear weapon 核兵器）というレンズを通してみていたのです。〝ゲンパツ〟という電気とくっつけるとヌークリアパワー、発電所までいくとヌークリアパワープラントとなります。でも言葉を覚えても、自分の見る角度とか見方があまり変わりませんでした。むしろ「サニーサイドアップ」は日本では〝目玉焼き〟だった驚きの経験などから、言葉の思い込みによって本質が見えていなかったことが、分かってきたのです。でもアトミックボムとヌークリアウェポンは逆に直訳のままでした。これは同じ視点で捉えていることを知りました。

そもそも核分裂の連鎖反応は物理学的な現象で、科学的な見方をすればそう言うものだ、と思い込んでいました。そして広島で原爆資料館や体験者と接したのです。私はどういう言葉を使うのかなと思っていたら、それは何と〝ピカドン〟でした。それは私にとって新出語で、解説を必要としない言葉でした。擬態語・擬音語としての鮮やかな効果のある言葉だったのです。私はすぐ使いたくなりました。お金と同じです。お金は使うと無くなりますが、言葉は使うと自分のものになるのです。経済的です(笑)。

〝ピカドン〟という言葉を東京に持ち帰って使ってみると何かが違い、自分も変わる感じがしました。広島の場合はウラン二三五、長崎の場合はプルトニウム二三九の核分裂連鎖反応です。たしかに「原子爆弾」「核兵器」「アトミックボム」「ヌークリアウェポン」です。

でも〝ピカドン〟は意味が違うのではなく、立たされる場所や位置が違うのです。「アトミックボム」や「ヌークリアウェポン」という言葉を好んで使っているのは米国防総省なのです。あの五角形の建物は、函館に行くたびに思い出すのですが、私は五角形に因んでペンタゴンと呼んでいます（笑）。〝ピカドン〟を使う時、私たちは相生橋にいて上空を見上げる立場になるのです。ＤＮＡがズタズタに切られ、黒い雨に打たれる立場が〝ピカ〟なのです。これは不思議なことではなく当然の帰結なのです。そして〝ピカドン〟という言葉は誰が作ったか、気になり始めたのです。

「アトミックボム」「ヌークリアウェポン」は核兵器を肯定した視点で作られた言葉です。マンハッタン計画の無法性は米国憲法だけで充分裁けた筈なのです。でも言葉でうまくごまかした。その正式〝商品名〟が「アトミックボム」「ヌークリアウェポン」なのです。

でも〝ピカドン〟は誰が作った言葉か分からないけれども、広島の人たちが作った言葉です。自分たちの全てを破壊したものを、優れた言語感覚で捉え、日本語の擬音語・擬態語の力を発揮して作った言葉なのです。八月七日の夜に広島からやって来た人が〝ピカドン〟と言っていたという証言から、ナガサキの前にこの言葉は既にあったのです。

私は広島の平和記念資料館に何百回も通いました。でも「平和記念資料館」という名前には問題意識を持っています。そこは〝ピカドン資料館〟でなければおかしいと思っています。

でもここは掘り下げて、言葉の奥にある問題を炙り出してみると、〝ピカドン〟はホンモノだということが分かります。ホンモノは権力者にとっては怖いのです。ごまかせないのです。ペンタゴンも米大統領も絶対に〝ピカドン〟と口にしない筈です。

それは〝ピカドン〟という言葉を使うと、本当の原爆を知る立場になるからであり、そこに一億二千万の日本国民が立ってしまうと再稼働ができなくなるからであり、原発輸出の障害になるからです。

（つづく・文責は編集部）

非核平和の海外情勢

　七月二六日全国の会常任世話人会で海外情勢報告が藤田俊彦常任世話人からありました。

①ＳＩＰＲＩ二〇一三年報告では、世界の配備核弾頭は四四〇〇（米二一五〇、露一八〇〇、英一六〇、仏二九〇）、配備以外（貯蔵など）の核弾頭は一二八六五と表記されている。

　ＮＰＴで認められた五つの核保有国は「無期限の将来にわたり保有国のままでいる決意のように見える」と皮肉っている。

　その中で、「中国のみが核戦力の規模を拡大しつつあるように見受けられる」と警告している。二〇一二年中国は、道路走行、地上配備、潜水艦搭載など核抑止力を強化するために、一連の包括的ミサイル実験を行っている。

②米国防長官官房の米国連邦会議への年次報告で「中華人民共和国のかかわる軍事・安全保障の諸動向二〇一三年」の報告があった。この報告は全七九頁にわたる詳細な報告である。

　人民解放軍の第二歩兵部隊は、中国の核弾頭ミサイルおよび通常弾道ミサイルを管理している。二〇一二年一二月までに台湾海峡に短距離ミサイル（通常ミサイル）が一一〇〇基以上配備されている。限定的であるが対艦弾道ミサイル（ＡＳＢＭ）を含む、通常弾頭搭載中距離ミサイルを実戦配備しつつあり、西太平洋地域において空母を含む大型艦船を攻撃する能力を与えている。

　また、第二歩兵部隊は、サイロ配備の大陸間弾道ミサイル（ＩＣＢＭ）の増強、ならびに、移動式運搬発射システムの追加など、核戦力の近代化を続けている。実戦配備されているＩＣＢＭは一二〇〇〇㎞を超える射程距離を持ち、米国本土の殆どの地点に到達可能である。海軍は主要戦闘艦船、潜水艦、水陸両用艦からなるアジア最大の艦隊を保有している。中国は空母「遼寧」を就航させ、自国の空母建造計画を持っており、複数の空母を建造する可能性がある。潜水艦部隊の近代化に対しても高い優先性を与えている。弾道ミサイル搭載原潜を引き続き建造しており、次の一〇年間に次世代弾道ミサイル搭載原潜は最大五隻が作戦可能になるだろう。

　中国は二〇一二年、宇宙ロケットを一八回打ち上げている。内六基は「北斗」航行衛星である。また、一一基の新型遠隔操作衛星を打ち上げた。これにより、全地球ネットワーク衛星が完備した。

③朝日新聞が七月一一日に発表した、パウエル元統合参謀本部長・国務長官のインタビュー「パウエル将軍、核兵器なき世界の展望を語る」が紹介された。

Ｑ…何故核兵器は役に立たないとお考えか？

Ａ…核兵器があまりにも恐ろしい兵器だからである。正気の指導者ならばその限界線を踏み越えてまで核兵器を使いたいという気にならないだろう。もし、その線を踏み越えないとするのであれば、そうした兵器は基本的に役立たない。ただし、私は軍事的な意味でそう言っているのであり、政治的に核兵器は抑止の価値を持っている。だから、私は核兵器削減の熱烈な提唱者になっている。我々は、本当のところゼロまで下降できるであろうか。答えはノーである。しかし、それは立派な願いである。

Ｑ…アメリカとしては、通常兵器だけで北朝鮮を十分抑止できるのか？

Ａ…北朝鮮に対しては核兵器を使わないで済むであろう。私たちは北朝鮮にこう告げるであろう。もし、そうした兵器を使ったならば、あるいは、それを使う準備をしていると予想された場合には、我々は、すぐ次の日に北の政権を粉砕するであろう。

Ｑ…中国も核兵器の近代化をしているのでないか？

Ａ…中国の核兵器はかなり慎ましい。それゆえ、彼らは核兵器を近代化しつつある。アメリカと中国の間で危機が生じたならば、核兵器を使用するのかという質問がある。私としてはそんなことは考えてもいない。われわれは中国とはなんら敵対関係にはない。世界には、中国が豊かになればなるほど、中国はより敵対的になると考える人々がいる。私は中国を四〇年間訪問してきたが、そうした判断を受け入れられない。一体なぜ、彼らが突然、われわれの敵になりたがるのか、教えて欲しいものである。（以下略）

（原和人全国の会常任世話人の報告から　文責は編集部）

非核石川の会　リレーエッセイ

胸を熱くした平和行進

川上仁志

私が、原水爆禁止の運動に参加したのは、大学一年のときでした。私の入学した日本福祉大学は、学生自治会の活動が盛んで、初めてのホームルームで、自治会の係りということで、私は「原水禁実行委員」（原水協の活動に参加していました）になってしまったのです。

実行委員の活動は、学習と平和行進の参加（仲間をさそって）、地域への署名（核廃絶の）とカンパ活動（世界大会派遣の資金にする）でした。

学習は主に日ソの核軍拡競争やアメリカの世界戦略、その経済的背景などについて先輩を講師に学びましたが、試行錯誤で手作りの学習でした。

平和行進は年間の一大行事で、福祉大学は愛知県内の最大勢力で、愛知繁華街を通るメインコースには学生だけで三〇〇名余りが参加しました。私の所属する経済学部は、古い言い方ですが「ノンポリ」と言われ、集めても三〇余名の参加でいつも肩身が狭かったのを覚えています。

平和行進は、うたごえサークルが中心になり、ギターを伴奏に歌いながらの行進で「原爆ゆるすまじ」「ヒロシマのある国で」「武器をすてろ」などの歌を歌いながら行進する、にぎやかな平和行進でした。

先輩からは、名古屋でも戦時中空襲でたくさんの方が被害にあったので、毎年カンパの小銭をビンに詰めて行進を待っていてくれるお年寄りが何人もいると教えてもらいました。私自身も何回か、そんな貴重なカンパをいただく経験をし、胸を熱くしたのを覚えています。

今の若者はそんな経験をする機会に恵まれておらず、かわいそうな気がします。そんな機会をつくるには私たちおじさん世代が頑張らないといけないと思うこのごろです。

詩人会議かなざわ「独標」より

笑って下さい

喜多村　貢

あれから
ぼくは　自由主義者になった
時間に追われ　縛られ
家族との団欒も犠牲にして働いた
企業戦士の勲章を捨てて
ほら　この通り
今では気ままな浮遊物だ

あれから
ぼくは　平和主義者になった
戦後の貧しい時代
親の背中を見て育った者が
目指したのは　反戦平和
ほら　この通り
今でも　武骨な両手の拳だけだ

あれから
ぼくは　楽天主義者になった
躓くこと病むこと数知れず
そんな男が　田舎ぐらしに合った
ほら　この通り
今では立派な極楽トンボだ

ぼくは
こうして　一人前の
ドン・キホーテになった
妻は「バカァ」と笑う
親友は「手に負えん」と許す
山は「それでいい」と答える
花は「ちょっぴり羨ましい」と頷く

和定例句会報より

宿題「あくどい」　星　啓　選

前抜

原発のあくどさ汚染水は海に捨て　大峰
公明に票を回せのあくらつさ　茂明
ワタミほどあくらつなのが当選し　和子
体罰が教育とはあくどいな　茂明
安倍自民あくどい原発あきないし　和子

佳作

TPP嘘はったりのサプライズ　一杜

（三才）

人位

あくどさはエゴ丸出しのTPP　一杜

地位

折り紙の付いたあくどさ祖父譲り　林

天位

ルール棄てあくどさ募らす資本主義　林

軸

アホノミクス争点外しで票掠め-

《非核平和・行事予定》

・**八月二四日(土)～二五日(日)**…日本母親大会・記念講演「憲法の息づく国に」伊藤真弁護士／伊藤塾塾長・東京＆千葉

・**八月二九日(木)一八時半**…原水爆禁止世界大会報告会・勤医協会館三階

・**九月五日(木)一八時半**…二〇時四〇分・原発をなくす石川県連絡会第二回総会と学習会・学習会「活断層調査結果と再稼働の問題点について」講師児玉一八非核石川の会世話人・会場近江町交流プラザ四階

・**九月九日(月)一二時半**…6・9行動署名・Mザ前

・**九月一四日(土)一三時半**…第一五回鶴彬をたたえる集い・かほく市高松町高松歴史公園

・**九月一五日(日)一〇時**…鶴彬資料展・高松文化センター・高松歴史街道フェスティバル実行委員会

・**九月二一日(土)一一時～一七時**…二〇一三年いしかわピース9フェスティバル・野々市市フォルテ・参加費一五〇〇円・主催同実行委員会

・**九月二三日(月)(休)一四時半**…金沢市民劇場例会・木山事務所「ミュージカルはだしのゲン」金沢歌劇座

・**九月二四日(火)一九時**…金沢市民劇場例会・木山事務所「ミュージカルはだしのゲン」・野々市フォルテ

・**九月二五日(水)一一時**…石川県宗平協総会・記念講演前田達男金沢大学名誉教授・津幡町倶利伽羅不動寺

・**九月二六日(木)一八時半**…いしかわ自治体問題研究所例会「アベノミクス成長戦略と雇用制度改革批判」伍賀一道金沢大学名誉教授・近江町交流プラザ四階

・**九月二七日(金)一八時半**…非核の政府を求める石川の会世話人会・近江町交流プラザ四階研修室

・**九月二八日(土)一四時**…県民が主人公の県政実現をめざす県民集会・講演石川康宏神戸女学院大学教授・憲法が輝く兵庫県政をつくる会代表幹事・労済会館ホール・主催新しい県政をつくる県民の会

・**九月二九日(日)一〇時半～一六時半**…九条の会北陸ブロック三県交流会・記念講演小澤隆一東京慈恵医大教授／九条の会事務局・金沢勤労者プラザ

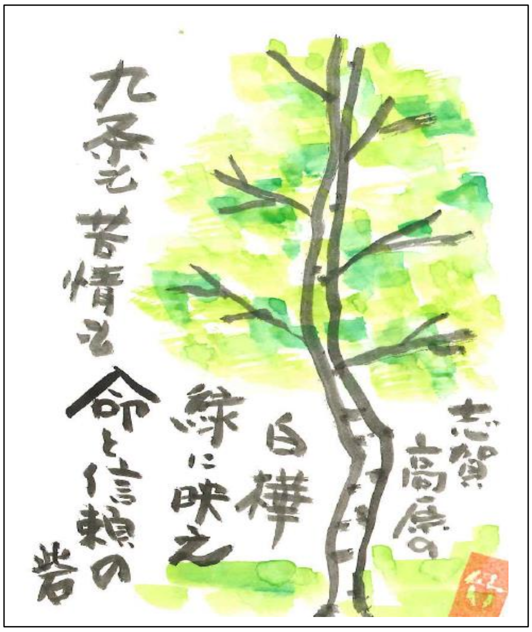
・**一〇月二六日(土)一五時**…莇昭三業績集出版記念講演会・祝賀会・金沢スカイホテル

・**一一月九日(土)一三時半**…「原発再稼働反対・志賀原発廃炉・福島被災者支援県民大集会」・志賀町文化ホール・主催実行委員会

絵手紙コーナー

「憲法や平和がとわれる　今年は特別の夏」

金沢医療生協・絵手紙班　竹味　恭子



《編集室より》

◎集団的自衛権を危惧する。九条改憲は直ぐに変えられず、先ず九六条の改憲をしようとしたら、これも国民世論に逆らえず沈黙。飛び出した麻生発言は安倍政権の本音であろう。

私的な『安全保障法制有識者懇談会』で集団的自衛権に道を開き、内閣法制局で集団的自衛権の政府解釈を変え、『国家安全保障基本法案』を成立させて法的根拠にしようと企んでいる。九条や九六条、憲法草案全般の明文改憲はゆっくり、慎重に行ってくる積りでしょうが、こちらの方は行動が早い。

憲法の条文を変えず実質的な憲法の改悪。麻生副総理のヒトラー発言の本音が見え隠れしている。

市民や市民運動の側がのんびりしているすきに大変なことが起きそうで怖い。（平）

◎八月ということで、映画で『終戦のエンペラー』『風立ちぬ』『少年H』、テレビで『生きろ』（戦中最後の島田沖縄県知事の実話）、『シベリア収容所…奇跡の手紙』等を相次いで観た。私にとっては特に意図的でもなく、ごく自然の成り行きだ。

それぞれの批評も少し読んだが、いろんな受け取り方があるものだと妙に感心する。この多様性こそが大事だと思う。そして関わり続けて風化させない堤防づくりに少しでも貢献できればいい、と思っている。このような意識は核の問題も同じだ。

ここで大切なことは、本号のビナードさんが指摘するような警鐘だ。言葉の使われ方の真偽（真義）を見極めねばなるまい。これを心得ておきたい。（ま）